

北横岳・縞枯山山行報告

【山行日】2020年1月11(土) 快晴

【集 合】岩舟支所P AM 5:30

【費 用】マイカー1台 : 5,200円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、青柳、齊藤、
鶴見、福島、吉田

【コースタイム】岩舟支所 P5:30 = 北八ヶ岳

RWP8:50/9:10+++RW 山頂駅 9:20/9:40~

北横岳ヒュッテ 10:15/10:25 ~ 北横岳南峰

10:40/10:50~北峰 11:00/11:15~北横岳ヒュッテ

11:25/11:50~雨池峠 12:30/12:55~縞枯山 13:25/13:35~展望台 13:50/14:10~五辻 14:30/14:50~

RW 山頂駅 15:30/15:50+++北八ヶ岳 RWP15:50/16:15=道の駅「ヘルシーテラス佐久南」17:05/17:20=

岩舟支所 P19:00

久しぶりに雪山入門コースの北横岳から縞枯山山行を計画した。ロープウェイで2237mの高所まで上がり、標高差250mを登れば山頂からは圧巻の大パノラマを楽しめるコースだ。



岩舟支所に集合し出発しようとするが、参加者が1名足りないのでTELすると寝坊して家に居るとの返事。後から現地集合で行きたいとの事で、とりあえず出発する。北関東道から上信越道を進み、佐久平PAで休憩しTELで確認すると八風山トンネルまで来ているという。道の駅「ヘルシーテラス佐久南」で待ち合わせることにし、無事合流し7名でロープウェイ駅に向かった。ロープウェイ駅駐車場で準備を整え、往復チケットを買って列に並ぶがTさんが居ない。

改札が始まり皆さんは先に乗ってもらい、我輩とSさんとTさんを捜す。ようやく見つけて次のロープウェイに乗り、山頂駅で無事皆さんと合流しアイゼンを付ける。ところが今度はAさんがアイゼンを車に置いてきたと言うので、取りに戻ってもらう。トラブルの連続で気が滅入ってしまうが、とにかく天気が良いので、SLとAさんは後から来ることにして5人が先に出発する。

山頂駅を出たらすぐに雨池峠への道と分かれて左に進み、溶岩台地の坪庭上に出ると北横岳や縞枯山の景色が素晴らしい。坪庭中ほどの北横岳分岐から北に向かうと、針葉樹林の急斜面を斜上するように登って行く。

トレースは多くの登山者が歩き、雪が締まっていてアイゼンが良く効き歩き易い。



白く雪化粧したシラビソの樹林を登り、三ツ岳への分岐を過ぎると北横岳ヒュッテに着く。大勢の登山者が休んでおり、我々も小休憩し記念写真を撮る。ここから急登を頑張って登ると、北横岳南峰



の山頂に着く。山頂は平らで広く八ヶ岳をはじめ蓼科山や南・中央・北アルプスの眺望がすばらしい。皆さん初めて見る大パノラマに感動し、写真を撮り合って展望を楽しんでいた。展望を楽しんだらお隣の北峰へ向かう。シラビソのヤセ尾根を緩やかに下り、緩やかに登り返すと5分足らずで山頂に着く。こちらも展望は抜群で、さらに浅間山や湯ノ丸山、日光連山まで見渡せる。蓼科山や北アルプスをバックに記念写真を撮り、展望を楽しんだら来た道を戻る。南峰からの下りでAさんとSLに会い、北横

岳ヒュッテで待つことにして2人は山頂に向かう。北横岳ヒュッテで休憩し、トイレを済ませて行動食を食べていると2人が降りて来て合流する。全員揃って坪庭まで来た道を下り、分岐を左に進み急坂を下ると雨池峠への道に出る。

大勢のスノーツアーが2組連なって渋滞し、道を譲ってもらい先に行かせてもらう。平坦な雪道を歩き、縞枯山荘を過ぎると少し登り雨池峠に着く。予定より遅れているがここでランチタイムとし、左に登った箇所を踏み固め場所を確保する。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただいた。ランチが済んだら峠から南に向かい、縞枯山の北斜面を登って行く。先ほどのツアーパーティが先行したので、トレースは



良く締まりとても歩き易い。ツアーの人たちを1人2人と抜いて行き、山頂でパーティに追いつく。急いで山頂の記念写真を撮り、パーティを抜いてこの先の展望台に向かう。縞枯山から急斜面を下り、傾斜が緩くなった所を左に少し登って大きな岩が積み重なった所が展望台だ。先客が大勢展望を楽しんでおり、場所を空けてもらって展望を楽しむ。硫黄岳から赤岳、阿弥陀岳等の八ヶ岳連峰

が間近に望め、振り返ると浅間山が大きく見える。

展望を楽しんだら縦走路まで戻り、少し下った先の鞍部から左に下って五辻に向かう。緩やかな谷間をしばらく下り、傾斜がなだらかになると五辻に出る。SLの足が攀ってゆっくり下るのを待って休憩し、ブッセやくだものをいただく。SLが到着し全員揃ってロープウェイ山頂駅に向かう。縞枯山西側の斜面をトラバースして進むが、行る山に登って行くので疲れた足に結構きつい。ようやく山頂駅に到着し、アイゼンを外してロープウェイ乗場に行くと、最終便の1本



前でもう少し遅れると歩いて下らなければならなかった。次々にハプニングが起きどうなることかと思っただが、最高の天気にも恵まれて素晴らしい眺望を満喫でき結果オーライの楽しい山行となった。